

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年 6月 1日現在

機関番号：14403

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2012

課題番号：23720185

研究課題名（和文） 戦後初期台湾における民族主義文学の成立と展開—梁実秋を中心に

研究課題名（英文） How was formed and developed Chinese nationalism in Taiwan in an early period after the war?—centered round on LIANG Shihch'iu—

研究代表者

中野 知洋 (NAKANO Tomohiro)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：70372638

研究成果の概要（和文）：台湾における調査で、1950年代以降の梁実秋が反共親米に傾き、民族主義思想を直接・間接に示すようになる基礎資料と、1920年代より継承される人文主義（ヒューマニズム）関係の論文を収集した。また香港では、梁が台湾における対外宣伝の一翼を梁が担っていた実態について知見を得た。さらに上海図書館において、台湾移住に先立つ日中戦争時期の梁の共産党に対する見方を示す文献等を収集した。

（英文）：Depends on investigations in Taiwan, gathered basic materials that show LIANG Shihch'iu's Chinese nationalism after 1950s. And in HongKong, got knowledge LIANG engaged in foreign publicity work. Moreover, gathered literature on LIANG's situation against communism in 1930s in Shanghai Library.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：梁実秋，民族主義，台湾

## 1. 研究開始当初の背景

第二次大戦終了後の台湾文学は、日本と中国という二つの国家に翻弄された歴史問題の解決、とりわけ植民地支配からの独立後、次第に中国の影響が強まる中で「台湾人」というアイデンティティの拠って立つ基盤をどこに求めるかという点を最大の課題としてきたとまとめることができる。

しかし一方では、主に中国国民党の文化宣伝政策を担った文化人もまた、国共内戦に伴ってその多くが大陸から台湾に移住していた。彼らは台湾に身を置きつつも「台湾人」という自己規定に馴染むことがなく、また旧植民地時代の「皇民」という意識も持たない

存在であり、周知の通り、1950年代には彼らを中心に民族主義文学という一大勢力が形成されるに至ったのである。

しかしながら民族主義文学は、「台湾文学の盲点」(1)と位置づけられているように、現在では台湾に主体的な文学が現れる以前の段階における一つの動向であったと位置づけられている。大陸より流入した知識人には、旧式の文言文による教育を受けた者も多く、伝統的な中国古典の素養を身につけた彼らは1950年代より旧詩（文言詩）による詩壇を形成し(2)、伝統的な文語による民族主義作品を発表することを通じて、台湾における民族意識の高揚に貢献した。他方、ほぼ同

時期に、例えば旧詩壇の取りまとめ役であった文人の曾今可（1901～1971）が、自ら刊行した文芸誌に民族主義小説を発表している。そこからは、大陸から持ち込まれた民族主義が、戦後数年を経た台湾において自律性を獲得し、自らの力で成熟と再生産を繰り返す力を獲得するまでの経緯と、そのダイナミズムを看取することが出来るのである（3）。

さて、戦後台湾に渡った文化人の中でも最も著名な英文学者である梁実秋（1902～1987）については、従来 1920 年代の「新月派」メンバーとしての活動や、米国由来の思想である人文主義やバビットとの関連が指摘されてきた（4）。しかしそのことと、台湾移住前後の梁実秋が、1940 年頃より「雅舍小品」と名付けられた一連のエッセイを発表し、それ以後芸術や芸能、食品から愛玩動物に至る生活全般の印象批評や名物考証に重点を移すようになったこととを関連づけて論じられることは極めてまれであると言える。

本研究は、梁実秋の抗戦時期より戦後台湾に至る言説の中から、主に反共的・民族主義的な評論・ルポルタージュを中心にして、台湾における民族主義文学の成立と発展という側面を読み取ることを目指した。そしてその上で、梁実秋におけるロマン主義が民族主義と結合し、やがて小品文という形で伝統に回帰するに至るまでの思想的形成を跡づけることを目標としたものである。

- (1) 陳千武「附録二 主持人講稿 台湾文学的盲点」(台湾・東海大学中文系編『戦後初期台湾文学与思潮論文集』2005 年 1 月)
- (2) 中野「曾今可と『台湾詩壇』」(『学大文』第 52 号、2009 年 3 月)
- (3) 中野「台湾における曾今可の民族小説」(『集刊東洋学』第 103 号、2010 年 5 月)
- (4) 小島久代「梁実秋と人文主義」(『お茶の水女子大学中国文学会報』第 1 号、1982 年 4 月)

## 2. 研究の目的

「抗戦文学」を真っ向から否定し（1）、あらゆる政治動向から一定の距離を保つという自由主義的傾向を指摘されることが多い梁実秋だが、実際には 1930 年代より反共的な評論が散見される（2）。

梁の思想的傾向は、台湾移住後の 1950 年代以降にも引き継いでおり、彼の筆になる反共ルポルタージュ等にその特徴を認めることができる（3）。梁はさらに台湾の国土を海外に紹介（翻訳）している（4）。台湾における「民主自由」のスローガンが直ちに反共・民族主義を意味すること、また 1950 年代当時の米国における自由主義と反共との関係という側面が影響しているとも考えられる

のである（5）。

そこで、民族主義という側面から梁実秋の言説を捉え直すことにより、抗日戦争時期より台湾移住後まで一貫する梁の思想的な核とも言うべき部分があることを論証することを目指した。また、梁の文学におけるロマン主義的傾向が、小島久代等によって指摘されている。ロマン主義が民族主義と結合し、やがて伝統回帰を志向するという流れは、同時期の台湾における民族主義的文化人にある程度共通する傾向であるように思われる（6）。

さらに梁実秋の小品文という形による一種の伝統回帰や、彼の 1940 年以降の中心的業績であるシェイクスピア研究等、多様な側面を考慮に入れつつ、梁実秋の思想を一貫性あるものとして解釈することができる論理を探究する。そしてその上で、梁の思想を、戦後初期台湾における民族主義文学の成立と展開の中に位置づける。

ところで、本研究で調査の対象とする梁実秋関係資料は、近刊の『梁実秋文集』（全 15 巻、鷲江出版社、2002 年）収載されていないものが多数に上る。『幼獅文芸』『聯合文学』『国文天地』『中外雑誌』『自由青年』等の刊行物に掲載された評論や研究者による先行研究、及び台湾の各大学で作成された博士論文等にも目配りしつつ収集を行った。また『聯合報』『中国時報』『中華日報』『中央日報』『世界日報』『台湾新生報』等の新聞に掲載された夥しい分量の梁実秋関連の消息記事・回想録・作品紹介・評論等の収集に務めた。

- (1) 梁実秋「与抗戦無関」(『中央日報』「平明」、1938 年 12 月)
- (2) 梁実秋「赤色帝国主義」(『自由評論』第 21 期、1936 年 4 月)、同「關於共產党的問題」按語(『自由評論』第 27 期、1936 年 6 月)等。
- (3) 梁実秋「光榮的悲劇第一幕」梁実秋等著『反共義士奮闘史』(新中国出版社、1955)
- (4) 丁星五主編・梁実秋英訳『錦繡河山』(香港・國際新聞攝影社、1955 年)、同『宝島台湾』(香港・國際新聞攝影社、1960 年)
- (5) 梁実秋・張芳杰編著『美国是怎样的一個国家』(復興書局、1954)
- (6) 中野「台湾における曾今可の民族小説」(『集刊東洋学』第 103 号、2010 年 5 月)

## 3. 研究の方法

台湾の国立国家図書館、及び国立台湾大学図書館などの機関における資料調査を通じて、梁実秋が 1950 年代以降反共親米に傾き、民族主義的な文章を直接間接に表明するよ

うになる、その基礎資料を収集、分析した。平成23年度は、1930年代後半以降の梁実秋関連資料を、主に梁の反共・反日評論を中心に収集し、梁における民族主義思想の特徴とその胚胎の過程を調査した。そして民族主義的傾向の梁の文学観全体に対する影響と整合性について考察した。

具体的には、1930年代後半の資料収集を上海図書館で1回実施し、『益世報』『大公報』『中央日報』等の中から文集未収録資料を中心に収集した。また1940年代の資料収集を台湾で1回実施し、台湾国家図書館、国立台湾大学図書館・国立台湾師範大学図書館等で『聯合報』『中国時報』『中華日報』『中央日報』等に所載の梁実秋関連記事、及び先行研究資料を収集した。

24年度は、前年度の成果を踏まえ、1950年以降、戦後初期台湾における梁実秋の民族主義言説を調査した。その際、梁の思想の変遷の過程を、同時期の他の民族主義文学との比較を視野に入れつつ考察した。

台湾国家図書館、国立台湾大学図書館・国立台湾師範大学図書館等における資料調査を2回実施し、文集未収録の単行本の調査や新聞・雑誌の中に散在する梁実秋関連記事・回想録・作品紹介・評論等の収集を行った。

#### 4. 研究成果

台湾国家図書館、及び国立台湾大学図書館等の機関において、数次に亘る資料調査を実施した結果、梁実秋「光榮的悲劇第一幕」(『反共義士奮闘史』台北：反共義士就業輔導処、1955)の全文複写など、1950年代以降の梁の反共親米に傾く民族主義思想を示す基礎資料と、梁実秋・侯健撰『關於白璧德大師』(台北：巨浪、1977)など、1920年代より継承される人文主義(ヒューマニズム)関係の論文を収集することができた。

文壇の背景との関わりとしては、中国文芸協会の活動報告『耕耘四年』(中国文芸協会第四届理事会編、1954)等により反共文芸政策を確認した。梁は対外宣伝に与っていたものとみられる(前述の丁星五主編・梁実秋英訳『宝島台湾 Taiwan the beautiful』香港：国際出版社、1960など)。

また上海図書館では、梁実秋「我對於中共問題的一個看法」(『華声』第1巻第2期、1944)、「再談中共問題」(『華声』第1巻第5・6期、1945)など、台湾移住に先立つ日中戦争時期の梁の共産党に対する見方を示す文献等を収集した。

同時に、比較対象として、国民党系の文人・戯曲作家である王平陵(1898—1964)等の調査を並行して行った。王は抗日戦争中、中華全国文芸界抗敵協会の常務理事を務めていた人物である。

王もまた台湾移転後宣伝工作に従事するなど(王平陵主編『復興中国的台湾』東方出版社、1952)、梁とよく似た軌跡を辿った。梁に関する調査と同時に『東方的坦倫堡』(重慶：独立出版社、1938)、『夜奔』(重慶：商務印書館、1941)を始め、重慶より台湾に至る王の小説、戯曲、論文等を網羅的に収集した。

その成果の一端を示す。王平陵「漩渦」(『中国文芸』創刊号、1952年3月)は、王が自ら創刊した民族主義雑誌の創刊号に掲載された台湾時期の最初期の小説で、記念碑的な作品と言えるものである。また、台湾時期の小説の単行本はいくつかあるものの、どれも初出不明で、管見の限り雑誌に初出を確認できるものとしては唯一の作品である。その内容は、自らを「傍観者」と見なし、他人からもたらされるごたごた(漩渦=うずまき)に巻き込まれることを拒む都市生活者の主人公が、思いがけず他人の家庭のごたごたに巻き込まれ、抜き差しならない状況に追い込まれるという、一種のコメディである。「劇中劇」という興味深い構造を持つ。と同時に、同作品は、その5年前に上海の雑誌に発表された小説の登場人物の名前を変えて舞台を重慶から上海に移した、言わば旧作焼き直しの作なのである(王平陵「隱秘的愛」、『学生雜誌』第1・2期合刊、上海：商務印書館、1947年2月)

重慶と台湾の民族主義文芸の継続制を示す、興味深い事例であると言える。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- (1) 「日本留学前後の曾今可小説」, 中野知洋, 『学大国文』第55号(大阪教育大学), 2012年3月, 15-28頁
- (2) 「『沈從文全集』未収録作品三篇」, 中野知洋, 『学大国文』第56号(大阪教育大学), 2013年3月, 19-38頁

[学会発表] (計2件)

- (1) 「王平陵「漩渦」の手法とモダニズム」, 中野知洋, 環日本海地域研究公開シンポジウム「中華圏におけるモダニズム」, 中野知洋, 2011年12月3日富山大学)
- (2) 「戦後台湾に渡った知識人—王平陵の場合—」, 中野知洋, 日本・アジア言語文化学会(招待講演), 2012年11月23日(大阪教育大学)

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中野 知洋 (NAKANO Tomohiro)  
大阪教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：70372638

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：